

ひらく

●一点を支点としてひらく●窓・扉をひらく●道をひらく●口・目をひらく●花がひらく●運をひらく●文化をひらく●インターネットをひらく●新聞・本をひらく●講座・会をひらく

—— 未来をひらく、心をひらく ——

特集

子育ては楽しい!

～小平市内の父親に話を聞いてみました～

2018.3

42

男女共同参画社会をめざす

子育ては楽しい!

～小平市内の父親に話を聞いてみました～

小平市でも、楽しそうに子育てをしている父親を見かけます。どうして楽しいのですか？お話を聞いてみると、とても自然な答えが返ってきました。



親子でサッカーを

楽しんでいきます

垣本 右近さん

私は、「ケルンチュ フットサルパーク花小金井」の代表、指導をしていて、6歳と2歳の男の子がいます。

フットサルの指導のあと自分の練習をして夜遅く帰宅するので、朝の支度が私の当番になっていきます。妻が出勤前に作ってくれた朝食を子どもたちに食べさせて、着替えさせ、保育園に送って行く毎日です。それから、自分の出勤前に、洗い物・洗濯など自分の出来ることは何でもしています。

子どもがいるから妻とのかかわりも親密になっていくし、子どもと一緒にフットサルやサッカーをするのも、とても楽しくて、笑顔にもなり、癒されます。また、大勢の子どもたちを指導しているので、親の気持ちも良く分かります。地域の子どもたちとも、もっとかかわっていきたいと、思っています。

子どもの成長は親が思っている以上に早いので、なるべく子どもと接して写真、ビデオなどを沢山撮って思い出を残したら楽しいと思います。



笑顔をもたらししてくれる

阿部 勢さん

一緒に湯船につかっているときが楽しいですね。お風呂は、娘とたくさん話せて2人の時間が持てますから。子どもの成長も知ることができず。髪を洗ってあげる時、以前はシャンプーが入らないように私が娘の目を塞いでやってましたが、3歳になった今は、娘が自分で目を瞑るようになりました。

娘は可愛いですが。毎日、顔を見て頭をさわってるんですが、いつも可愛い。時には腹が立つこともありますよ。でも、娘と居ると、いつの間にか笑顔になってます。そんな自分にか気付いたら、自分の父親が自分にどんな思いをよせてくれたのか？わかるようになりました。これは自分が父親になったからですから、妻と娘に感謝です。





旅に連れて行くと、楽しい！

伊東 良和さん



子どもを旅に連れて行き、いろいろな経験を共有することが楽しい。中でも茨城県水戸市、子どもを授かって初めて住んだ場所で、12才の長女には生まれ故郷なので、定期的に行っています。家族そろって行くとりセットできるといふか、元気が出ます。干波湖せんぱこに行く子どもたちは、白鳥に餌をやったり、公園で木登りしたり、長い滑り台で遊んだり、紙芝居を見たり、夢中です。普段以上に子どもらしい姿に私も最高に嬉しくなります。

私は趣味でバスケットをしていて、練習で家にいないことがあります。子どもが小さい頃からそれを応援してくれる妻のやさしさに気付いて、感謝の気持ちで家事を手伝ったり、子どもが好きな動物園に連れて行ったり、いろいろな体験をしました。家族でかけがえのない時間を大切にしています。

今は、仕事から帰ると、4人の子どもたちが「お帰りなさい」と迎えてくれます。その笑顔を見ると、疲れが吹っ飛びます。



娘の成長を感じるのが生きがい！

飯田 聖良さん



娘が3歳になり、食事や歯磨き、お風呂など、スムーズに行かないことを、どうしたらいいか？毎日考えますが、「今しかできない子育てをしているんだ」と、子育てを楽しむようにしています。寝返りができたり、立てるようになったり、言葉が出るようになったり、娘の成長を感じると、嬉しさと楽しさが湧いてきます。

最近だと、自分がマラソンをしていることをどこで知ったのか、娘が「一緒に走ろう」と言ってくれたので、喜んで2人で町内を一周しました。子どもの成長とともに子どものできるが増え、私と一緒にできることも増えていきます。楽しみです。

その日にあったこと、楽しかったことを娘に聞いて、私も話して、「コミュニケーションを図り、毎日、寝る前には、妻の提案で絵本を読んで聞かせています。娘にとって安心感が持てる父親になりたいな、と思っていますが、私も成長していると感じます。

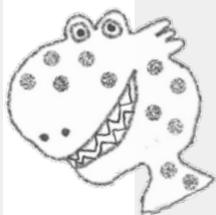
これからは「男キャンプ」が楽しみ

渡辺 哲也さん

休日に旅行やキャンプなどアウトドアで家族と過ごす時に一番楽しいなあと思います。息子と2人だけで行く「男キャンプ」も、楽しみの一つです。これから思春期になるので、焚き火を見ながら色々な話をするのも楽しみです。

平日は帰りが遅いため、なるべく朝食は一緒にとっています。休日は家事・育児に協力します。3食の献立を考えて作り、食器洗いをし、洗濯と風呂掃除をします。独身時代からやっていたことです。息子と娘には、家事も育児も男女の別なくできるようになって欲しい。それが当たり前のことだと思っています。会社では、同僚と子どもの習い事や学校選びのことが話題になります。

疲れて帰宅したとき、娘の無邪気な言葉でほっと心が安らぐことが度々あります。「子どもがいる生活は賑やかで楽しいもの。いいものですよ。」



子どもの未来に思いをのせて

塚田 諭史さん

育児は毎日が試行錯誤の連続で、その上これまでと違う父親像が求められ、理想のモデルもないから大変です。さらに、夫にとっては妻からの期待も大きなプレッシャーだったりして辛いと思うことも。とは言え、妻にとっても子育ての不安や心配は同じはず。お互い様の気持ちで相談しながらやっていくしかないと思っています。

それでも楽しみや喜びも大きいのが子育てだと思っています。たまに子どもと餃子を作ることがありますが、たわいのないおしゃべりをしながら、小さな手が餃子を作るのを見る時や、登園時に幼い言葉で『ドードシエイショウシヤ（道路清掃車）！』と叫ぶ声を聞きながら自転車のペダルを踏んでいる時など、忙しい中にも子どもたちの暮らしの喜びを感じます。そして、子どもたちの表情やしぐさの中に自分に似たところを見つけたりするとか、ヤッパリ親子だなという思いを強くするし、これから2人がどんなふうになくなって行くのかなあと考えると子育ての楽しみが大きく膨らみます。





自分の楽しい時間を

子どもたちと共有する

ステイブ・ディアンジェロさん



子どもたちが小さかった時、一番楽しかったのはクリスマスです。クリスマスの朝、サンタクロースのためにツリーの前に用意しておいたクッキーは半分食べられ、ミルクは飲み干され、そしてプレゼントを発見、その彼らの驚いた大きな目と大喜びの顔を見るのが、父親として一番幸せな瞬間でした。家族にとつての幸せな時間であるクリスマスの朝は、子どもたちが大人になっても一緒に過ごしています。

日本だけでなくアメリカでもお父さんたちは、子育てに悩むことはあります。私は朝ご飯と夕飯を家族と一緒に食べることを大切にしてきました。なぜなら、食べることが好きな私は、自分の幸せな時間を子どもたちと一緒に共有するのは、子育てを楽しくするためには大切だと思ったからです。そして私はスイーツ作りが趣味なので、私が作ったケーキを美味しく食べる子どもたちを見るのも大好きでした。

子育ては、そのうち終わってしまうものですが、若いお父さんたちには自分の幸せな時間を子どもたちと共有するなど自分なりの方法を見つけながら、貴重な子育ての時間を楽しんでほしいな、と思います。



楽しむまでいってません

新米パパさん

3歳の息子がいます。私が子育てを始めて3年が過ぎました。子育てが楽しいか？といわれると、正直に言って、楽しむまでいっていません。確かに、帰宅した時に息子が玄関に走って出て来て、私を迎えてくれるのはうれしいです。抱きしめて「ただいま!」と言うと、息子もとてもうれしそうで、父親になって良かったと思います。親は子どもにいろいろ教えなければいけないのですが、私は、子どもから教わることが多いです。親としてはまだまだですが、子どもと一緒に成長していきたいですね。



★コラム
第21回 女と男のフォーラム報告
第21回「女と男のフォーラム」は、2月25日午後1時半から、中央公民館ホールで、安藤哲也さん（NPO法人ファザリング・ジャパン（NPO法人ファザリング・ジャパン代表理事）を講師にお招きして開催しました。
題して「子育てを楽しむ新戦略」パパの笑顔が社会を変える」。3人のお子さんを育てられ、今は子育てをする男性を支える活動をしておられる安藤さんのお話が始まると、参加した市民のみなさんには笑顔が溢れ、終わると若い男性が「子どもがほしい」と話していました。



紹介します

小平市女性相談

お気軽にご相談ください

4月から
月曜日の相談時間が
延長になります

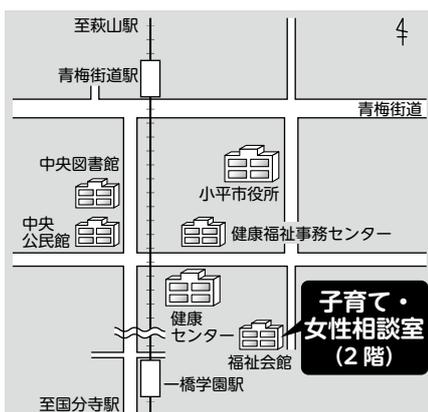
女性が抱えるさまざまな問題をいっしょに考え、解決するための場です。ひとりで悩まず、気軽ににご相談ください。専門相談員が対応し、秘密は厳守します、電話・面接により相談に応じます。費用は無料です。

ひとりで
悩んで
いませんか？



小平市女性相談

☎042-345-2415
月曜日 10時～18時
火～土曜日 10時～16時
(日・祝日・年末年始を除く)



子育て・
女性相談室
(2階)

小林市長が

「おとう飯(はん)」

サポーター
になりました！



今年度から内閣府が実施している「おとう飯 始めよう」キャンペーンは、男女共同参画の実現をめざし、子育て世代の男性の家事・育児等の中で、料理への参画促進を目的としており、小林市長がその活動を応援する「おとう飯(はん)」サポーターになりました。



小平市の郷土料理である簡単「糰(かて)うどん」を作って、応援メッセージを発信しています。おとう飯は簡単に手間をかけず、食材も身近なもので良いのです。内閣府のホームページ内には「おとう飯」レシピも掲載されています。

内閣府男女参画局ホームページ
「おとう飯」サポーター
<http://www.gender.go.jp/public/otouhan/supporter/index.html>

「市内事業者懇談会」

多様な人材が

活躍できる職場作り

人口減少や高齢化が進む中で、中小企業や小規模事業者の人手不足は深刻化しつつあります。一方で市内には子育てや家庭と仕事を両立しながら、近くで働きたいと考えている優秀な女性がたくさんいます。

そこで1月26日に、男女共同参画センター「ひらく」に市内の中小企業・小規模事業者の担当者等にお集まりいただき、厚生労働省の「女性活躍推進アドバイザー」から、多様な人材が活躍できる職場作りについてお話をいただきました。

さらに、小平市で初めて女性活躍推進法に基づく『えるぼし』企業の認定を受け、多くの女性が活躍している市内事業者の社長に、『えるぼし』認定までの経緯やメリットについてお話をいただきました。

懇談会では、女性の意見を取り入れることで売上げが上がった、雰囲気良くなったなどのメリットや、女性を採用したいが女性の応募がない、女性を管理職にしたいが、前例がないのでどうしたら

いいのかなど、課題も挙げられました。

参加した方からは、今後女性活躍に向けた事業主行動計画を策定していきたい、今後も女性活躍に向けた取り組みを進めていきたい、という前向きなご意見をいただきました。来年度も、このような事業者懇談会を開催していきます。



市の取組を

人権（LGBT）講座

「私が私らしく生きるって」

～性の多様性について知ろう～

12月10日、世界人権デーの当日に、小平市男女共同参画センター「ひろく」において、人権（LGBT）講座を開催しました。

講師にはNPO法人共生社会をつくるセクシュアル・マイノリティ支援全国ネットワーク代表理事の原ミナ汰さんをお招きして、身体の性と内面が相容れない性自認の問題や、異性ではない人を好きになることなどについて、お話をしていただきました。性の多様性について正しい知識を学び、誰もが自分らしく生きることができる地域社会をどう作っていったらよいか多くの方と一緒に考える機会となりました。



女性の就労支援講座

「私らしい働き方で幸せになる」



～いつか働くために今できること～

結婚や出産等により退職後、再就職を考えながら迷っている、子育て中の女性のための就労支援講座を、10月24日に保育付きで開催しました。

当日は、講師としてマザーズハローワーク立川の「就職支援ナビゲーター」からお話をいただきました。

参加者は30歳代後半を中心に21名で、妊娠・出産を機に退職された方が半数近くを占め、お子さんの保育園や幼稚園入園を機に、再就職を考えており、皆さん熱心に聞き入っていました。

次に、市の保育課職員から市内保育園や幼稚園の設置状況、入園手続き等についても説明がありました。

働き方のポイントとして、正社員や契約社員、パート等の雇用形態があり、社会保険や税金についても考える必要があります。また就労時間や日数、仕事の場所や仕事内容等の希望条件の優先順位をしっかりと整理して、就職活動に臨む心構えが大事になることを学びました。



マザーズハローワーク立川

仕事と育児・家事の両立を目指す方を支援する専門のハローワークです。

お子様連れでも利用でき、毎月託児付き就職活動支援セミナーを開催していますのでお気軽にご利用ください！

＜開庁時間＞ 平日10時～18時

土・日曜日、祝日、年末年始はお休み

※各種イベント情報は
「マザーズハローワーク立川」
で検索を！



公式 HP



公式 LINE@

地域防災フォーラム

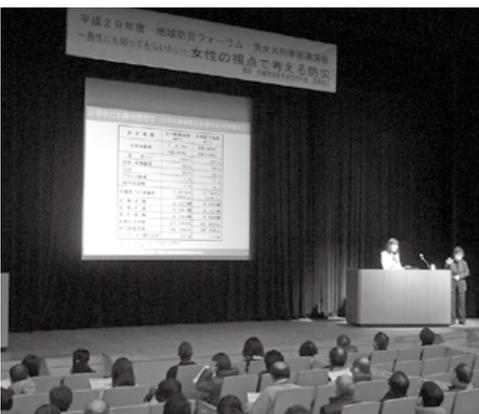
男女共同参画講演会

～男性にも知ってもらいたい～

「女性の視点で考える防災」

初の試みとして、防災危機管理課と市民協働・男女参画推進課が共同で、2月24日（土）にルネこだいらの中ホールにて講演会を開催しました。講師に危機管理教育研究所代表の国崎信江さんをお招きして、女性として、母として、生活者の視点で家庭を守るための防災対策についてお話をしていただきました。

地域防災を担っていただいている大勢の市民や防災関係者も、命を守るために本来に必要な防災対策、自宅の備えについて、改めて考えさせられる内容でした。



ひろく広場

原稿をお寄せください

ひろくの記事や表紙の感想、その他なんでもOKです。原稿(500字以内)には、住所、氏名(ふりがな、原稿掲載は匿名・イニシャル可)、年齢も書いてください。採用された原稿は文意を変えずに短くする場合があります。

あて先 / 小平市小川町二丁目1333番地
小平市地域振興部市民協働・男女参画推進課
「ひろく広場」係 FAX 042-346-9575
kyodo-danjo@city.kodaira.lg.jp



当たり前前に家事をする父

「元気が？」と聞くと「今年の雪はまだまだなあ」と受話器の向こうから大きな声で答える、耳の遠くなった父は今年95歳。

30年前。脳梗塞で倒れ意識が戻らなかった母の病室に、父は1日も休まず通い、できる限りの時間母のそばにいた。共働きの兄夫婦と4人の孫。母に代わって、早朝から洗濯機を回し、畑をつくり、冬には雪かきを済ませて母のもとに通っていた。

その頃同じ町内に住んでいた私は、出勤前、母の病室に父の弁当を届けることで父にエールを送っていた。毎朝、母の枕元に前日の綺麗に洗った弁当箱が置いてあり、蓋を開けると決まって「ごちそうさま」のメモ紙が入っていた。

母は11年頑張ってくれた。周りの人たちは父に「偉いね。」と声をかけた。母は生きていることで父を支えていた。父は11年、ただ母に会いたかったんだと思ふ。

昔から日々の生活の中で当たり前
に家事をやってきた父は、今でも畑
をつくり、やっぱり洗濯物を取り込
んでいる。

(小川町 熊倉妙子)

写真展

「スウェーデンのパパたち」

世界25か国を巡る写真展「スウェーデンのパパたち」が、平成29年8月日本にやってきました。

会場には、25点の作品とパパたちのコメントが展示されていました。子どもをあやしながら掃除をしたり、一緒にお昼寝をしたり、何気ない日常の1コマを切り取った作品です。

一方、コメントには、「パートナーへの理解が深まった」「子どもたちとのつながりが強くなった」など、パパとしての役割に自信をのぞかせる意見が添えられています。

しかし、イクメン先進国スウェーデンにおいても、母親と同じだけの育児日数を得るパパは、14%程度にすぎません。育児は母親の役割という認識が、世界的に強く根付いているのかもしれない。

私が伺った会場では、20〜30代のカップルが比較的多く来ていると教えてくれました。この写真展を機に、育児は「パパとなっていく大切な時間、幸せなひと時」と男性が感じてくれば、女性とともに育児や家事の役割を担い、また仕事もこなすライフスタイルが広がっていくのだろう、と感じました。

(40代 会社員男性K)

登録団体FILE③

小平はぐくみプロジェクト ~こだはぐ~

小平はぐくみプロジェクト(こだはぐ)は、「産前産後ママの心と体を癒したい。支えとなり、助け合える仕組みを作りたい。」という想いで、2013年11月に発足した市民活動団体です。現在、子育て中の母親を中心とするメンバー11名で活動しています。「はぐくみ」という言葉には、「育む」と「Hug(抱擁)」の2つの意味をかけて、孤独な子育てに悩むママたちを抱きかかえるように寄り添っていきたいという願いもこめました。



こだはぐロゴ



2017年12月 こだはぐカフェ 助産師さんとお話会の様子

毎月の「こだはぐカフェ」は鈴木公民館で10:30~14:30に開催しています。午前中は、子育ての専門家の方をお招きして、お話し会を行っています。今までに、保健師さん、助産師さん、産後ドゥーラ(産後間もない母親に寄りそい日常生活を支える専門家)さんなどにお話しをしていただきました。

12時からのランチは、地元の農家さんからご提供いただいた新鮮野菜を使い、食育インストラクターや栄養士の資格をもつスタッフが考えた身体にやさしいメニューをお出ししています。ママ達からは、「野菜がたっぷり、とっても美味しかったです!」、「家では昼は簡単に済ませるのでありがたい」など、ご好評いただいています。

開催日や内容などの詳細はブログをご覧ください。ぜひ、お気軽に遊びにいらしてください。

スタッフ一同お待ちしております。カフェの運営をお手伝いして下さる方も募集しています。

Mail:kodahugml@gmail.com
HP:kodahug.com

男女共同参画センター「ひろく」は、市内で活動する個人や団体を応援しています。

ひらくの言葉「マミートラック」

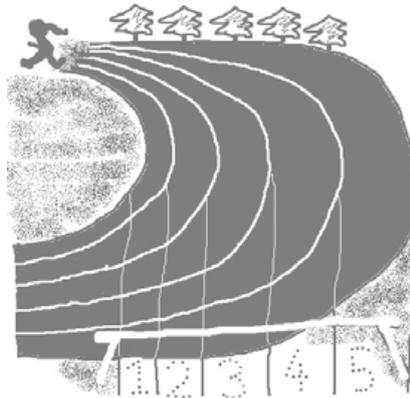
男性も女性も就職する時は同じ場所からスタートし、その後、年次や能力に合わせて次のステージへと昇進していきます。ところが、出産・育児をする女性には残業なしで負担の少ない仕事が与えられ、気がつくくと出世がのぞめなくなる場所でグルグルとトラックを走り回るように働かされる、このことを『マミートラック』といいます。

このマミートラックにより、お母さんたちは必然的に仕事と育児のバランスをとらされることとなりますが、その間お父さん達は仕事だけに集中して次のステージへと昇進していきます。

2014年にスイスの大学教授らが、子どもを複数持つ女性は、子どもを1人持つ女性、子どもを

持たない女性より企業の中で生産性のある仕事ができるという研究結果を発表しました。家族をまとめるお母さんたちは組織を構成する技術を得て、育児と仕事のバランスをとるため制約された時間内で仕事をしてきたため、時間管理能力や運営力など、母としての経験は仕事に多く生かされ、今まで以上の生産をすることができると研究はしめくくっていました。

母としての経験は仕事にいかされるべきで、企業にとっても大きな戦力になることは間違いありません。少子化により、ますます若い働き手が少なくなる将来が迫っています。マミートラックなどで女性の能力を無駄遣いせず、お母さんが働きやすい仕組みを作るのは、今後喫緊の課題となるでしょう。



「表紙作品」(5/21)

「春」をモチーフに 絵を描く美大生

『黒板ジャック』—武蔵野美術大学が社会貢献活動として2011年から始めた活動です。学生たちが各地の学校に行き、子どもたちが来る前に教室の黒板いっぱいにはチョークで絵を描き、子どもたちと交流する活動です。その『黒板ジャック』が12月24日元気村まつりで実現しました。

描いてくださったのは、すうさんと鈴木果穂さんとバタ子こと小畑紫(ゆかり)さんのお2人。朝9時過ぎ黒板に向かい、大まかな構図を決め、チョークで描き始めました。描いては布でふき取り、綿棒も使い、指でなぞりながら、またチョークで描き、少し離れて確認しあう。

黙々と手を動かすお2人。白い犬と少年の目に色が入ると、すっと心が通い、その目はいきいきキラキラと輝き出し、周りには春の花がつつぎと咲き始め、絵がどんどんこちらへ押し寄せて来ます。作品が出来上がったのは、描き始めて5時間後でした。お2人にお話をうかがいました。

鈴木さんは、「3月刊行の『ひらく』に合わせて春をモチーフにしました。額縁の外側にはたくさん春の植物を描きました。中でも、木蓮は地球上最古の花木と呼ばれ、現代までその姿は変わっておらず、昔と今を繋ぐロマンチックな植物です。

『ひらく』というタイトルから、世界をひらく絵を描こうと考えました。額縁から飛び出している少年や犬は、新



小畑さんと鈴木さん

しい世界を自ら開いていくことを表しています。けれど、そこには昔から存在している美しいものもあります。ただ新しいだけじゃない。それを自分で見つけていく。そんな思いを込めて描きました。」

小畑さんは「期待に応えられるか不安でしたが、制作中や完成後に見てくださった方々にたくさん言葉をかけてもらい、とてもうれしく思いました。このような企画に参加できたことを嬉しく思います。とてもいい経験ができました」と、話されました。

確かに、お2人の作品を見た市民は「わあ、すごい！」、「ずっと見ていたいわあ」と声を上げ、素晴らしいアートを楽しみました。



『ひらく』の書棚



小平市男女共同参画センター“ひらく”にある本の紹介です。本は借りることができます。

『13歳から自立できる家事の基本』

丹伊田ヨ子 著

＜PHP研究所 発行＞

1,200円＋税



小学校を卒業したとき自立できるように、必要な家事の基本をイラスト入りのやさしい文章で書いた本です。

「食」、「衣」、「住」の3部門に分けて、丁寧の説明されています。子どもたちがこの本を読みながら経験を積みあげることができるように書かれています。長く小学校教員をされていた著者の思いが込められた本です。

中でも、防災に関することは、子どもたちだけでなく私たち大人も日頃から学んで、災害の原因を取り除けるようになっておく必要があります。

たとえば、安全ブレーカーが作動したときどうするか？漏電ブレーカーが作動したときどうするか？停電したとき可能な限りブレーカーを落として避難することを知っていますか？とても役立つ本です。



『虹色のチョコレート』

働く幸せを実現した町工場の奇跡

小松成美 著

＜幻冬舎＞

1,300円＋税



「日本でいちばん大切にしたい会社」と言われる「日本理化学工業(株)」は、従業員の7割が知的障がい者のチョコレートの製造会社です。会長の大山泰弘さんは「人は人に必要とされてこそ幸せを感じられます。楽しく皆が幸福を感じる事が出来る、そんな会社にしていきたい」と半世紀以上前から障がい者を健常者と同等に雇用して業績も上げています。

知的障がい者を雇用することになったいきさつ、職場で起きたあつれきや逆境を乗り越えてきたこと、障がい者の懸命に働く姿、障がい者家族の会社への感謝の思い、健常者の障がい者への理解、尊敬の念、友情など、心優しい人々たちを丁寧に取材して書かれた本です。胸が熱くなりました。

『「逃げ恥」にみる結婚の経済学』

白河桃子・星枝俊悟 著

＜毎日新聞出版＞

1,000円＋税



昨年、社会現象を起こしたドラマ『逃げるは恥だが役に立つ』を題材として、今の

結婚事情、結婚観を少子化ジャーナリストの白河さんが分析し、経済学が専門の星枝さんが家事の対価などをわかりやすく数値化して、世間の常識に流されず、互いに向き合い、やるべき仕事とその評価、報酬を確認していこうとする夫婦関係を提案している本です。好きで結婚した男女がこれを実施すると、結婚生活の現実が見えて、確かな家庭づくりができそうです。

『1945年のクリスマス』

ベアテ・シロタ・ゴードン 著

＜朝日文庫 朝日新聞出版＞

860円＋税



ベアテさんの自伝。圧巻は何と言っても、人間として扱われてこなかった日本の女性たちの権利を、著者が日本国憲法に書き入れる数日間の凝縮された時間の記述部分です。ズーッと秘密にされてきた憲法草案づくりの舞台裏が明らかになります。

「日本はとくに男女平等の国」という人は、それが、ただか70年前のこの憲法が始まりだということを知っているのでしょうか。「夫婦別姓なぜ必要か わからない」という人は、夫婦が名乗る姓は、両性の同意のもとに決められるのに、女性側の姓を名乗る夫婦が圧倒的に少ない現実をどう捉えるのでしょうか。自分のシロタ姓も夫のゴードン姓も名乗って生きてきた、ベアテさんが光り輝いて見えました。

行って みました

武蔵村山市男女共同参画センター『ゆーあい』

武蔵村山市は案外、小平市に近いまちです。そこに素晴らしい参画センターがあると聞いて訪問しました。

◆複合施設

モノレールの桜街道駅から近い都営住宅の1階部分に武蔵村山市立緑が丘ふれあいセンターがあり、①緑が丘コミュニティセンター②男女共同参画センター『ゆーあい』③第一老人福祉館の3館が入った複合施設です。とても明るくて広く、訪れた人の気持ちも高まります。右手に③福祉館、左手に①コミセン②『ゆーあい』があり、多目的ホールのほか多数の会議室を備えた、ゆとりのある設計になっています。

◆『ゆーあい』で大切にしていること

『ゆーあい』とは、YOU（あなた）とI（わたし）を意味していて、人と人の関係をよくして社会を変えていこうという考えを表わしています。『ゆーあい』を管理・運営しているNPO法人ダイバーシティコミュ（東建社グループとの共同指定管理者）代表の森林育代さんにお話を伺いました。森林さんは、「地域で生きる 機会を創る 世代を繋ぐ」をセンターのキャッチフレーズとして掲げ、13人のスタッフを率いて文字通り縦横無尽の活動をすることで男女共同参画を推進しています。運営する上で大切に



いることは、「問題・課題解決のための多様な人材のいる地域づくりをめざしている」というお話でした。

スタッフは、「子連れ出勤もあり」という組み合わせ出勤で「働き方改革」を実践していて、頼もしい限りでした。

◆対象は絞り込む

『ゆーあい』の事業は多岐にわたり、武蔵村山市男女共同参画計画-男女YOU・Iプランに沿った事業展開になっています。

特に注目されるのは、対象を絞り込んだ講座が多いことです。例えば、ママ、パパによるベビーマッサージ、プチ起業フェスタ、ガチ起業フェスタ、シングルマザーのためのおしゃべりサロンなど。「女性と防災」では、小平市でもお馴染みのあんどうりすさんが講師でした。展示物も工夫を凝らしたものが多く、LGBTに関する展示や新聞の切り抜き展示が目を引きました。『ゆーあい』の事業は施設内で行われているものだけではなく、市役所庁舎内や市内にある大規模商業施設で男女共同参画を推進する展示も行っています。

◆『YOU☆I』

むさしむらやま男女共同参画情報誌『YOU☆I』は、スタッフやインターン学生が作り出します。玄関を入るとすぐ目につく、斬新な色・デザイン・形の冊子です。定型のA4サイズ、ときにはA5のハンディサイズと、中身とともに自由な発想でつくられています。

武蔵村山市男女共同参画センター『ゆーあい』

- ◆場 所：武蔵村山市緑が丘 1460-1111-1
- ◆H P：http://www.fureai-diversity.com
- ◆電 話：042-590-0755
F A X：042-567-1433
- ◆E-mail：fureai@diversitycommu.jp
- ◆開館時間：午前9時～午後10時
- ◆休館日：第1月曜日、年末年始

ひらくはココにあります。

男女共同参画センター“ひらく”、公民館(11館)、図書館(11館)、地域センター(19館)、大学(6か所)、福祉会館、市民総合体育館、児童館(3館)、健康センター、健康福祉事務センター、市役所、東部・西部出張所、郵便局(17か所)、市内各駅(7か所)、ふれあい下水道館

- 小川町 手作りクッキーの店歩、商工会館、JA 東京むさし、小平警察署、小平消防署小川出張所、南台病院、梅
- 小川西町 佐野商店、たましん小平支店、NMC ギャラリー、小川ホーム
- 小川東町 ギャラリー青らんぎ 上水本町 アトリエ・パンセ
- 学園西町 ビューティーサロンサンローズ、梁里館、美容室ヘアアグラシユ、本間歯科、ヘアサロンサンライズ、あかね薬局、床屋のけんちゃん、笹間住宅資材、たましん一橋学園支店、学園接骨院、国際交流協会
- 学園東町 日本堂文具店、梅の里、アクティブスタジオ、りそな銀行小平支店、東京都民銀行小平支店、おだまき工房、きそ歯科クリニック、ふく歯科、寝具センター丸新、美容室 Je、とりあん、一橋鍼灸接骨院、お化粧のしのざき
- 美園町 多摩済生病院、カフェラガラス、珈琲の香、POEM(ぼえむ)、永田珈琲、ルネこだいら、小平駅前クリニック、シャンブル、子育てサポートきらら
- 仲町 小平消防署 大沼町 ガスミュージアム
- 花小金井 公立昭和病院

編集後記

武蔵村山市立緑が丘ふれあいセンターを訪問して、印象が強かったのは指定管理者の女性です。元ミュージシャンで、就職、結婚、育児を経験して働く女性の不自由さに直面。多様性が認められる社会づくりを目指して保育園併設協働オフィスの経営をされています。これからは色々な経験をされた人に会い、刺激を受けて頑張っていきたいと思います。(北さん)

子育ては女性がすること、と多くの男性が思っていた時代は終わったみたいです。今回、取材させていただいた男性は、子どもができる其自然に子育てを始めています。子育てを始める、子どもが可愛くて、ますますのめり込み、イクメンになるよつです。その言葉は、私もそうでした。(北さん)

小平在住・在勤・在学の女性を訪ねて、そのいきいきした様子や元気の素を伝えます。

いきいき レディ 40



尾崎 絢子さんは、大学卒業後、児童福祉の仕事に携わり、子どもとの関わりの中で自分の価値観が覆される体験をたくさん経験したそうです。「子どもたちと一緒に悩み、考えた日々は、私の哲学カフェの原風景です。いつかどこかで、様々な人たちと考えたり、対話したいなという思いを持ち始めました。」

そして、子ども哲学の本を読んだのがきっかけで、尾崎さんは「自分がやりたかったのはこれだ!」と思い、哲学カフェに足を運び始めました。しかし、当時の哲学カフェは、小さい子どもを持つ女性にとって厳しい時間帯で、電車に乗って行かなければなら

好きなことをとことん追求したい!!

「はなこ哲学カフェ いどばたのいどほり」

主 宰 尾崎 絢子さん

ないので、子どもを連れて行けなかったそうです。そこで、平日の昼間に、子どもを連れて行ける哲学カフェが私の街にあればいいな!という思いから尾崎さんが始めたのが「はなこ哲学カフェ」です。

哲学カフェの特徴は、何を言ってもいいというルールですが、日常生活の中で何を言ってもいいという場はほとんどないのではないのでしょうか。空気を読んだり、異なった意見を言いづらかったり…。でも、哲学カフェでは、異なった意見は新しい視点の意見として受け入れられ探求が進むきっかけにもなるので歓迎されます。そのような自由の場を体験できるのが、哲学カフェの醍醐味だそうです。

しかし、「はなこ哲学カフェ」の中でママ向けの哲学カフェは、一般向けに比べて、何を言ってもいい場を作るのが難しい場面があるように感じるそうです。ママというカテゴリーで生活していると、似ていることが多く、共感できると安心だが、異なった意見を聞くと否定されたような気持ちになるのです。

「異なった意見を言うことは否定することとは違います。異なった価値観の意見に触れることがとても楽し

いことを実感できるような、安心したコミュニティの中で対話することはとても重要で、どのように場のセーフティを作れるかは、私たちの大きな課題です。」と語る尾崎さんはいきいきとしていました。

「やりたいことをやる」という気持ちで始めた「はなこ哲学カフェ」、その思いを大切にしながら尾崎さんは、気持ちを引き締める。そして、「自分たちと同じように考えるって人と話すと楽しい!」と思ったり、悩みを違った角度から見られるようになった!という人が1人でも増えればうれしいな」と、願っています。

最後に、「自分の足できちんと歩いている、と感じるのは、初めてかもしれません。好きなことをとことん追求する気持ちを大切に、これからも歩んでいけたら」と、話されました。



小平市男女共同参画センター 最近の動き



元気村まつり



12月24日、元気村おがわ東では、「元気村まつり」が行われました。参画センターでは、利用登録団体が自ら作成したポスターを展示し、日頃取り組んでいる活動を、イラストなどを交えて、わかりやすく発表していました。

また、午前中は塗り絵と折り紙のワークショップ、午後はセンター所蔵DVD「男女共同参画で地域力UP」の上映が行われ、廊下ではミニバザーやカフェが出店していて、市民のさまざまな活動に触れる機会となりました。

今回は、10月に予定されていた「元気村まつり」が年末の慌ただしい日の開催となりましたが、たくさんの方にご来場いただき、顔の見える交流が活発に行われました。ご参加、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

ひらく

第42号
平成30年3月発行

発行/小平市地域振興部市民協働・男女参画推進課
☎ 042-346-9618 FAX 042-346-9575

企画・編集/男女共同参画推進実行委員会

浅野 里美	北川 紘二	谷原 裕子
安食世津子	酒井 愛	野崎 裕子
阿部 直子	寿福院美屋子	吉岡 博江
岡 武左	高橋 雅子	吉村 順介
岸 和夫	高橋 賢治	

『ひらく』は男女平等な社会、だれもが生きやすい社会、住みやすい地域を作るために役立つ広報誌です。公募市民が企画・編集をしています。

再生紙を使用しています。